

=====

CONTENTS

- 卷頭言
- 第65回全国学術大会自由論題等募集のお知らせ
- 第11回太田勝洪記念中国学術研究賞について
- 連載 在外研究記 第1回
- 事務報告
 - 2015-16年第1回常任理事会議事録
- 地方部会報告
 - 西日本部会共催日中学術研究集会
 - 関東部会 2015年度春季修士論文報告会
- 学会スケジュール（予告とお知らせ）
 - 2015年度関西部会大会のご案内（6月6日）
 - 2015年度西日本部会研究集会のご案内（6月20日）
- 日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

=====

- 卷頭言 ひさしぶりの北京 大澤武司（熊本学園大学）

今年もゴールデンウィークは清華大学ですごした。労働節の連休で交通量が少ないせいか、「乾杯の嵐」となった宴会が終わった後、清華の近春園で見上げた月がなんと美しくかった。恥ずかしながら、北京は一年ぶりだった。戦後日中関係史を研究している私は、院生の頃から中国外交部檔案の調査を続けてきた。檔案が公開された2004年以来、少しでもまとまった時間があれば年に何度も「北京詣で」をくりかえしてきた。

だが、2012年9月の日本政府による「島」の国有化を機に日中関係は悪化の一途をたどった。くわえて、その年末には審査を経て公開されていた檔案に「尖閣」という文言が明記されていることが報道され、中国外交部檔案が注目を浴びるに至った。この騒ぎを境に檔案の大部分が非公開扱いになってしまった。必然的に私の「北京詣で」は大幅に減り、上海や台北などで調査を行うことが多くなっていた。

このようななか、昨年11月、北京でAPECが開催された際に日中首脳会談が実現し、さらに先日のバンドン会議60周年記念会議でも習近平国家主席と安倍晋三総理が笑顔で握手する光景が見られた。ある外交関係者によれば、具体的には書けないが、バンドンに先立つ今年3月の博鳌フォーラムでも着実な「関係改善」の動きを裏づける光景が見られたといわれる。

今年には第二次世界大戦終結70周年であり、対華21か条要求受諾100周年でもある。今後7月7日、8月15日、9月3日、9月18日、12月13日など、日中関係には「ハードル」

が数多く待ちかまえているとされる。バンドンでの安倍総理の演説に対する中国側の対応は今後の動きを考えるうえで重要だとの指摘もある。前出の外交関係者は、両国首脳が「関係改善」という同じ方向を見つめている以上、大きな混乱は起こらないだろうと語っている。

政治関係の改善が檔案調査にどのような影響を与えるかは不透明である。今回も朝陽門にある外交部檔案館を訪れたが、入館前の所持品検査を行う警備室で「檔案館は閉館中だ。コンピューターのシステム更新で5か月間は開館しない」と軽くあしらわれた。「5か月後ということは10月ということか？」と聞くと、少し考えてから「10月1日以降にまた来るように」との回答だった。本当だろうか。2年前の2013年1月、檔案館は「システム更新」を理由に一時閉鎖され、その後、大部分の檔案が非公開扱いとなったが、それにしても今回の閉鎖はあまりにも長い。会員諸氏はこれをどう読むだろうか。

今回、少しばかり時間があったので盧溝橋を訪れた。中国人民抗日戦争紀念館は7月のリニューアルオープンに向けて急ピッチで全館改装工事を進めていた。また、紀念館がある宛平城内の小さな商店街も「観光地化」するためなのか、前門の「あの」街並みをモデルにしたような、路面舗装を含めた全面的な再開発工事が進められていた。すべて完成すれば、バスターミナルが併設される街ぐるみの「抗日テーマパーク」が出現するのだろうか。

紀念館に向かう道すがら、タクシーの運転手が「なんで紀念館なんかに行くんだ」と聞いてきた。「歴史を学ぶためだ」と答えると、彼は「歴史問題なんて国や政治家の間で問題になるもので、俺とあんたみたいな個人の間ではまったく関係ねえことだよな。ま、歴史を知らねえのは困るけどな」と満面の笑顔を見せてくれた。ひさしぶりの北京はあいかわらず素敵であった。

■ 第65回全国学術大会自由論題等募集のお知らせ

(*4月23日に電子メールで配信しました第1版の誤記を修正してお届けいたします)

2015年の日本現代中国学会全国学術大会を、10月24日(土)・25日(日)の日程で、同志社大学今出川校地において開催することになりました。

今年の全国大会の共通論題は「日本の中国研究を問う」としております。日本の中国研究は長年の蓄積があり、非常に厚い研究者層もあります。しかし目下の日中関係を見ると、両国民の相互理解はきわめて不十分といわざるを得ません。今こそ一度立ち止まり、中国研究に取り組む我々専門家集団が中国をどのように理解し、それを如何に日本に伝えてきたかを振り返った上で、変貌を続ける中国をどう捉えるべきか、また日本の対中理解に果たすべき我々の役割とは何かについて深く議論し、今後の方向性を考えてみるべき時ではないでしょうか。

そのほか、会員の皆さまからも以下の募集を行いますので、ふるってご応募ください。

- (1) 自由論題の報告希望者
- (2) テーマ分科会の開催希望者

応募要項は以下の通りです。

1. 自由論題での報告（1人の報告時間は25分程度）をご希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨（800字程度）を下記10の連絡先までお送りください。大学院生は指導教員、またはそれに相当する人の推薦状（推薦者の所属、氏名、連絡先、推薦理由を記載）が必要となります。
2. テーマ分科会の開催（報告者2～3名、約2時間）をご希望の会員は、企画者の氏名・所属およびテーマ分科会設定の趣意書（800字以内）、報告者・所属、報告テーマ、討論者・所属、司会・所属を確定のうえ、下記申し込み先までお送りください。会員での構成を原則とし、変更はできません。
3. 自由論題およびテーマ分科会に関するご連絡は、すべて電子メールでお願いいたします。その場合、添付ファイルは使用せず、メール本文にテキストで記してください。
※推薦状も原則としてメールで作成し、応募者はそれを転送するかたち（メール本文にペースト）をとってください。ウイルス感染防止のため添付ファイルは受け付けませんので、ご協力をお願いします。
4. 締め切りは、6月15日（月）といたします。
5. 学会非会員の方は、入会が報告申し込みの条件となります。入会申請（申請先は学会事務局）をしていただいたうえで、ご応募ください。入会手続きが発表までに完了しない場合でも、申請済であれば発表は可能です。
6. 大会参加の旅費等は自己負担となります。
7. 報告希望、テーマ分科会企画が多数にのぼる場合は内容や会員歴などにもとづき、調整させていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。
8. 報告申し込みをされた方には、メールにて実行委員会より申し込み受理の連絡をいたします。メール送付後、1週間以内に連絡がないときは、再度メールにてお問い合わせください。
9. 自由論題報告者は10月10日（土）までに報告原稿またはレジュメを実行委員会まで提出してください。※パワーポイント等の機器使用を希望される場合は、申し込み時に必ず明記してください。
10. 申し込み先は、以下の実行委員会メールアドレスです。genchu2015@gmail.com

この機会に当学会未加入の優秀な院生等にも是非、入会・発表をお勧めいただきますようお願い申し上げます。

2015年4月吉日

日本現代中国学会第 65 回全国学術大会
同志社大学実行委員会事務局

日本現代中国学会事務局 担当: 日下石(代行: 鈴木)

tel 03-5307-1175

fax 03-5307-1196

e-mail: genchu@univcoop.or.jp (このアドレスは申し込み先ではありません)

■第 11 回太田勝洪記念中国学術研究賞について

2015 年 1 月 31 日(土)に開催された中国研究所新年会において、杉山文彦中国研究所理事
事長より受賞論文の発表と賞状・賞金の授与が行われた。今回は、現代中国学会の『現代中
国』編集委員会からの推薦はなかった。

■連載 在外研究記 第 1 回 「香港大学での海外研修」 中村元哉(津田塾大学)

私の問題関心は、学生時代から一貫して、中国近現代の民主憲政史を解明することにある。
私は、香港研究を志しているわけでも華南地域研究を志しているわけでもない。それにもか
かわらず、なぜ香港大学を研修先に選んだのか。その理由は主に二つある。

一つ目は、やや消極的な理由である。端的に言ってしまえば、「六四」25 周年を迎えて、
私の研究テーマが大陸中国でやり難くなったからである。2013 年元旦の『南方週末』事件以
来、友人たちから教えてもらった情報を総合すると、歴史研究としての憲政研究も様々な困
難に直面していることを知った。

二つ目は、積極的な理由である。清末から民国の歴史に精通している研究者なら、近年の
研究潮流を振り返るまでもなく、民国史が 1949 年以降の人民共和国史、台湾史、そして香港
史に分散し、各地域の歴史に影響を与えたことは、いまさら確認するまでもないだろう。加
えて、この三地域が相互に影響を及ぼし合い、その相互関連性が各地域の変化を促したこ
も解明されつつある。

確かに、政治、思想、学術の分野に限定した場合、民国史から香港史への流れは、民国史
から人民共和国史もしくは台湾史への流れほど、魅力的ではないのかもしれない。民国史と
人民共和国史および台湾史の関連性に注目すれば、宋慶齡、羅隆基、儲安平、錢端升、周鯁
生、楊兆龍、王鉄崖(以上が民国史から人民共和国史)、吳国楨、王世杰、胡適、雷震、殷海
光(以上が民国史から台湾史)という具合にビッグネームが次々と浮かぶのに対して、民国史
から香港史の関連性についていえば、錢穆、左舜生、謝澄平、程思遠、胡菊人、陸鏗……と
いう具合に、「そんな政治家や思想家に注目してどうする?それが現代香港理解や現代中国理
解に寄与するのか?」と考えてしまいがちである。『自由陣線』、『聯合評論』、『七十年代』、
『百姓』とメジャー誌を並べたところで、「それがどうした?」ということなのだろう。

しかし、これらの人物や主要誌に注目すると、戦後香港研究を香港アイデンティティ論の
みに収斂させてはならないことが分かる。冷戦のなかの香港は、共産党と国民党の宣伝・文

化政策の主要な対象地域であり、その政策の成否にかかわらず、反中・反共あるいは反台・反国の感情を生み出し、反ソ・反英に加えて反米の感情をも露呈させた。さらには、民国期の文化・文明論争を継承して、新儒家と呼ばれる人々が、国民党やアメリカとの複雑な関係を背後にもちながら活躍していた。中国研究者にとって、これらの動態が人民共和国史と台湾史の展開にたびたび影響を与えたということは、何とも興味深い。

私が追究している中国憲政史のうち、1950年代から1970年代の社会主義憲政は、『自由中国』や『民主評論』のみならず『自由人』、『自由陣線』、『聯合評論』、『七十年代』を視野に入れなければ、どうも完結できないようである(もっとも、その前に、1950年代から1970年代の人民共和国史を憲政史から再整理するのが先決であるが……)。私にとっての課題は、「時評:雨傘運動の歴史的射程」(『歴史学研究』930号、2015年3月号)をどのように自らの研究に活かしていくのかということである。少しずつ研鑽を積んでいきたい。

■事務報告

□2015-16年第1回常任理事会議事録

日時：2015年3月2日(月)13時から16時

場所：東京大学駒場キャンパス18号館4階コラボレーションルーム2

出席者：川島真理事長、加茂具樹事務局長、阿古智子会計担当理事、趙宏偉関東部会代表、大澤武司西日本部会代表、王雪萍広報委員長、高見澤磨規約・財務健全化委員会座長、巖善平開催校代表(2015年)

欠席者：田中仁副理事長、北川秀樹関西部会代表、菊池一隆東海部会代表、山本真編集委員長、孫安石開催校代表(2014年)

【報告事項】

1. 会務報告

加茂事務局長より、冒頭、会員数について報告がなされた。2015年2月27日現在で、個人会員734名。団体会員5団体。この間の新規入会は11名であった(本常任理事会閉会時点で、本常任理事会で承認した1名が加わる)。

2. 2014年大会報告

加茂事務局長より、2014年大会が盛会で終わったことが報告された。孫開催校代表(2014年)より、書面にて第64回全国学術大会報告および会計報告が提出され、加茂事務局長が代読した。会計報告については、常任理事会で回覧して内容を確認した。巖開催校代表(2015年)より次期大会の準備及び運営に関連したいくつかの質問が提起された。提起された質問事項について、巖開催校代表(2015年)と孫開催校代表(2014年)との間で情報交換をおこなうこととなった。

3. 会計報告

阿古会計担当理事より、会費納入状況について報告がなされた。2月27日現在、734名の

会員のうち、未納なしが 382 名、未納 1 年が 222 名、2 年が 69 名、3 年が 45 名、4 年が 16 名である。

4. 編集委員会報告

山本編集委員長より、メールで報告が提出され、これを加茂事務局長が代読した。

1) 編集状況

山本編集委員長より、『現代中国』89 号の編集がはじめられているとの報告があった。

2) 編集予算について

山本編集委員長より、『現代中国』89 号の編集の過程で、会員以外の査読者への査読謝礼が発生した旨の報告があった。また同査読謝礼の支払いの方法についての質問があり、会計担当理事が対象者に振り込むことを確認した。

5. 広報委員会報告

1) 王広報委員長より「広報委員会報告」が提出され、学会 HP、ニューズレター等の発行状況をふくめて、活動状況が報告された。特にニューズレター（第 44 号）の発行が遅れたことの報告があった。

2) また王広報委員長より、HP 管理業務についての報告があった。審議の結果、学会ホームページに関するデータを管理するサーバー会社との契約（サーバー管理費等の支払い）の状況を確認するようこととなった。

3) 王広報委員長より、学会 HP への『現代中国』誌目次の掲載担当者の確認を求める提案があり、審議の結果、同業務の担当について編集委員長と広報委員長との間で確認することとなった。

4) 王広報委員長より、ニューズレターにおける年度表記について確認があった。常任理事会は、会計年度は毎年 10 月 1 日から 9 月 30 日までであること、事業年度は全国大会開催日から次年の全国大会開催日までとすること、を確認した。

6. 地域部会報告

1) 趙関東部会代表より、平成 27 年 1 月 25 日(日)に定例研究会が開催され、また来る 5 月 9 日(土)に修士論文報告会が予定されていることが報告された。

2) 北川関西部会代表より、書面での報告があった。関西部会に所属している畿開催校代表(2015 年)が代読した。関西部会の新体制、来る 6 月 6 日(土)に 2015 年度関西大会が予定されていること、10 月 24 日(土)および 25 日(日)に 2015 年度全国学術大会の開催が予定されていることが報告された。

3) 大澤西日本部会代表より、西日本部会の新体制、および 2015 年度西日本大会の開催にむけて準備をすすめていることの報告があった(事務局注:6 月 20 日(土)に福岡大学で開催)。

4) 菊池東海部会代表より、書面での報告があった。2 月 28 日に愛知大学にて第 4 回研究集会在開催されたこと、本年 5 月あるいは 6 月に第 5 回研究集会的開催を予定していることが報告された。

7. その他 特に報告はなかった。

【審議事項】

8. 新入会の承認

関西部会より、1名の新規の承認案件が提出され、承認された。

9. 2015年全国大会について

厳開催校代表（2015年）より、2015年10月24日（土）と25日（日）に同志社大学にて開催を予定している2015年全国大会についての報告があった。資料「2015年日本現代中国学会全国大会実行委員会（第1回）」にもとづいて（同実行委員会での報告資料）、会場の準備および共通論題案について等の報告がなされ、了承された。同大会に合わせて開催を予定している理事会は第1日目の午前に開催を予定している旨の報告もあった。

10. 『現代中国』刊行についての業者の選定

高見澤規約・財務健全化委員会座長より、『現代中国』89号以降の制作会社の選定にかかる資料が提出され、審議の結果、学会が直面している課題を確認し、総合的に判断し、同89号および90号の制作を株式会社凱風社に依頼すると決定した。

11. 『現代中国』編集関連の業務等について

山本編集委員長より、メールで審議提案が提出され、これを加茂事務局長が代読した。

1) 山本編集委員長より、査読期間に関する投稿規定を修正したいとの提案があった。審議の結果、『現代中国』の刊行にあたって編集委員会が状況に適した柔軟な活動ができるよう（編集委員長および同委員会が過度の負担を負わないように、かつ投稿者の不利にならないように）、投稿規定を修正することを認め、次回、編集委員会から常任理事会に修正案を示すこととなった。

2) 山本編集委員長より、英文題目とサマリーの校閲費用に関する提案があった。常任理事会は、編集委員長および同委員会が直面している問題について理解したうえで、「投稿者が英文題目およびサマリーの内容に責任を負い」、「修正の必要だと考えられるものについては編集委員会の判断において対応する」、という従来の方針を確認した。また、現在、学会財務状況に余裕があるわけではないことに鑑み、常任理事会は、同委員会が『現代中国』の編集費予算の範囲のなかで対応することを確認した。

12. その他 次回理事会を7月に同志社大学にて開催すること、早急に日程調整に入ることを確認した。

以上

■地方部会報告

□西日本部会共催日中学術研究集会

3月25日、西日本部会では、日本郭沫若研究会、九州大学大学院言語文化研究院と共催で、「清末民国初期の来日中国人留学生と中国現代文学日中学術研究集会」を福岡市の九州大学

西新プラザ大会議室で開催した。参加者は計 52 名。盛況だった。

集会には、中国から李怡北京師範大教授、劉福春中国社会科学院研究員ら 14 名の研究者が参加、うち 12 名が、日本側は 12 氏が発表を行った。集会は大澤武司西日本部会代表の挨拶に始まり、日本郭沫若研究会代表の岩佐の総括で閉幕した。論文の予稿集を配付し、口頭での発表は最長 15 分以内に制限、また通訳をつけず、中国語使用を原則としたおかげで、6 時間 20 分の時間内に 24 名が報告をするという窮屈、かつハードなプログラムだったが、時間通り順調に予定を終えた。集会終了後、西南学院大学クロスプラザに移動、約 30 名が参加して懇親会を行った。翌 26 日午前は、貸切バスで九大医学部、箱崎、大宰府など郭沫若文学関連の史跡巡り、午後は開花間もない福岡城の桜を楽しんだ。

研究発表のテーマは「留学」をキーワードとし、以下に示すように、文学のみならず音楽、美術、留学制度、日本の中国学建設など多岐にわたった。ただ質疑と討論の時間がとれず、議論が深められなかったのが残念だった。

最後に研究発表の主題となった人物や事項を記し、内容の一斑を紹介したい（発表順、括弧内は報告者。所属は省略）。

留学と異文化認識（藤田梨那）、東文学堂と清末民初文学（王学東）、日本経験と中国近代学校音楽（傅宗洪）、留日期郭沫若の自然視野（李怡）、目加田誠の北京留学（静永健）、濱一衛の中国留学（中里見敬）、30 年代北京旧書店（稲森雅子・邵劼）、中国現代詩と日本文化（李俊杰）、革命文学の勃興と日本要素（張武軍）、中国の革命文学と日本の普羅文学（王雲燕）、日中「武侠」比較（呉双）、傅抱石と金原省吾（成家徹郎）、劉錦堂と日中台の近代芸術（羽田ジェシカ）、春柳社研究（瀬戸宏）、留日学生と日本新劇界（間ふさ子）、夏衍の『法西斯細菌』（武継平）、周作人訳の武者小路実篤『久米仙人』（裴亮）、周作人・銭稻孫と九州学者（呉紅華）、留学時代の魯迅と章炳麟（李哲）、清末留学政策と郭沫若兄弟（劉建雲）、郭沫若と聞一多（劉殿祥）、郭沫若初期小説（顔同林）、李劫人の省都革命史（鄭怡）、日中教育交流（錢曉宇）。

* 予稿集＝中国語（A4 版・245 頁）は残部が少数あります。希望者には送料込 1000 円でお送りします。お問い合わせは岩佐（iwasa.yanzuo[アットマーク]gmail.com、送信時にアットマークを半角記号へ変換してください）まで。

□関東部会 2015 年度春季修士論文報告会

関東部会は、修士論文報告会を 2015 年 5 月 9 日（土）に東京大学駒場キャンパス 2 号館で開催した。指導教員・部会理事の推薦を受けた報告者は 5 名、報告テーマ・司会は下記の通りである。参加者数は 30 数名で、活発な議論がなされた。

1) 楊駿驍（早稲田大学大学院文学研究科 D1）

「コミュニケーション環境の変化から見る「八〇後」の創作——「図文集」を例に」

司会：千野拓政（早稲田大学）

2) 樽林雪子（東京大学大学院人文社会系研究科 D1）「老舍『四世同堂』日・英翻訳研究」

司会：宮尾正樹（お茶の水女子大学）

3) 馬嘉嘉（立教大学大学院法学研究科 D1）

「改革開放後の中国における腐敗と反腐敗の政治学—アモイ遠華密輸事件を中心に—」

司会：倉田徹（立教大学）

4) 尹国花（一橋大学大学院社会学研究科 D1）「ソ連軍占領期における中国延辺社会」

司会：大西広（慶應義塾大学）

5) 孟美玲（東京大学大学院総合文化研究科 D2）

「日本における中国獅子舞の継承—日本唐山龍獅総会の活動を中心に—」

司会：谷垣真理子（東京大学）

1) は近年流行する「八〇後」の作家たちの「(撮影) 図文集」という作品形式の分析を通して、自己構築を目的とするコミュニケーション環境とそのメカニズムを明らかにした。2) は老舎とアイダ・プルーイトの共同作業による『四世同堂』英文版と中文版、日文版との比較を通して、日米における老舎受容の背景や差異を考察しようとするもの。3) は改革開放後の「反腐敗運動」の実態を整理し、中央と地方の経済活動の関係や関税の問題を視座に据えた内実の解明をめざしている。4) は主に 1945 年～46 年の延辺における朝鮮人共産党員の活動を通して、中国共産党が延辺社会を組織していく過程を跡付けようとした。5) は中国獅子舞の活動団体の一つである「日本唐山龍獅総会」の沿革と活動を紹介し、華僑華人社会、多文化共生等の視座設定への手がかりを示した。

■学会スケジュール（予告とお知らせ）

□2015 年度関西西部会大会のご案内（6 月 6 日）

日本現代中国学会 2015 年度関西西部会大会のプログラムをお届けいたします。周囲の方々にもお声をかけていただき、多数ご参加いただきますようお願いいたします。

出欠につきましては、別紙「参加申込書」にご記入の上、5 月 31 日（日）までに、メールまたはファックスで事務局総務宛にご回答ください。会場の都合上、事前に参加人数を把握する必要がございますので、お手数ですがご協力くださいますよう、よろしくをお願いいたします。

参加申込書送信先：関西西部会事務局（総務）西村正男

メール：nishimur [アットマーク]kwansei.ac.jp *送信の際[アットマーク]を半角記号に換えてください

ファックス：0798-51-0955（「西村宛」と明記願います）

日本現代中国学会 2015 年度関西西部会大会〈プログラム〉

日時：2015 年 6 月 6 日（土）9:30～17:15（受付は午前 9 時より開始）

会場：龍谷大学ともいき荘（京都市上京区室町通下長者町下ル近衛町 38）

京都御所蛤御門西、護王神社裏

アクセス、地図 <http://www.ryukoku.ac.jp/tomoikiso/access.html>

参加費：無料（懇親会費用は別途）

【自由論題報告】 9:30～12:00（報告 30 分、コメント・討論 20 分）

【宗教・環境分科会】

司会：松村 嘉久（阪南大学）

第一報告 (9:30~10:20) : 寇 鑫 (龍谷大学・研究員)「中国西北部乾燥地域における農業用水の再配分に関する考察—水利権と水資源の有効利用を中心に」

第二報告 (10:20~11:10) : ボヤント (桐蔭横浜大学・研究生)「内モンゴル東部地域における宗教変遷の実態—ホルチン左翼後旗を実例として」

第三報告 (11:10~12:00) : 磯部 美里 (名古屋大学・学術研究員)「上座仏教社会における宗教実践の変化とジェンダー—西双版纳・タイ族を事例として」

【政治・日中関係分科会】

司会 : 辻 美代 (流通科学大学)

第一報告 (9:30~10:20) : 林 礼釗 (大阪大学・院)「儲安平の「民主」思想—1949年の政治的選択を中心に」

第二報告 (10:20~11:10) : 根岸 智代 (京都外国語大学・非)「第6回太平洋問題調査会議の日中討論に関するメディア言説」

第三報告 (11:10~12:00) : 易 星星 (兵庫県立大学・院)「中国旅行社の国際戦略と華人ネットワーク (1937-1954年)」

【社会・教育分科会】

司会 : 日野 みどり (愛知大学・客員研究員)

第一報告 (10:20~11:10) : 安 姍姍 (奈良女子大学・院)「中国における医療化された妊娠・出産—産む女性を対象として」

第二報告 (11:10~12:00) : 魏 禕 (同志社大学・院)・巖 善平 (同志社大学)「中国の大都市における教育発展と教育の達成メカニズム—天津市民調査に基づく計量分析」

【文学・芸術分科会】

司会 : 瀬戸 宏 (摂南大学)

第一報告 (9:30~10:20) : 小野 純子 (名古屋市立大学・院)「台湾映画『KANO~1931 海の向こう甲子園~』に見る台湾軍事動員」

第二報告 (10:20~11:10) : 森平 崇文 (神戸学院大学)「戯劇節と戦後内戦期の上海文化」

第三報告 (11:10~12:00) : 城山 拓也 (立命館大学)「葉浅予「王先生別伝」をめぐる考察」

昼食休憩 (12:00~13:15)

【共通論題 シンポジウム】 13:15~17:15

「2015年の中国」

司会・趣旨説明 : 田中 仁 (大阪大学)

報告 (13:30~15:30 各 30分)

歴史 川井 悟 (プール学院大学)

経済 中川 涼司 (立命館大学)

政治 三宅 康之 (関西学院大学)

映画 張 新民(大阪市立大学)

休憩(15:30-15:50)

フロアからの質問、討論(15:50-17:00)

[懇親会] 17:30~19:30

会場：京都ガーデンパレス（部会大会会場から徒歩5分）

一般 5,000 円 学生（院生） 3,000 円 *参加希望者は必ず事前にご連絡をお願いします。

〈関西理事会のご案内〉

昼食休憩中（12:00~12:45）に関西理事会を3階・研修室4にて開催いたします。関西理事の方は、5月25日（月）までに出席を事務局宛お知らせください。

〈参加者の皆さんへ〉

1. 会場には、駐車場、駐輪場はありませんので、公共交通機関でお越しください。当日の昼食は周辺のレストランをご利用になるか、お早めに周辺のコンビニなどで弁当を購入するようお願いいたします。
2. 出張依頼状は公印を押す必要があるため、全国事務局で発行します。必要とされる方は、下記宛ご連絡ください。
〒166-8532 東京都杉並区和田 3-30-22 大学生協学会支援センター内
日本現代中国学会事務局
Tel 03-5307-1175、Fax 03-5307-1196 E-mail: genchu[アットマーク]univcoop.or.jp
3. 関西部会大会では、学会費の取り扱いはいたしません。学会費は本部事務局に納入ください。本部事務局振替口座番号は、学会HPに記載されています。
4. 会場にはコピー機(カード式)が1台設置されていますが混雑が予想されるため、報告者の方は、配布資料をあらかじめ印刷してご持参下さい。

日本現代中国学会関西部会事務局

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67

龍谷大学政策学部 北川秀樹研究室

連絡先：

事務局総務・西村正男

nishimur[アットマーク]kwansei.ac.jp

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町 1-155 関西学院大学社会学部

ファックス：0798-51-0955（西村宛と明記ください）

□2015年度西日本部会研究集会のご案内（6月20日）

日本現代中国学会 2015年度西日本部会研究集会のプログラムをお送りさせていただきたく存じます。ぜひ奮ってご参加いただきますようよろしくお願い申し上げます。

研究集会ならびに懇親会への出席につきましては、お手数ですが、必要事項をご記入のうえ、

メールまたはファックスで 6 月 12 日（金）までに部会代表までご回答いただければ幸いです。
ご協力何卒宜しくお願い申し上げます。

参加申し込み連絡先：熊本学園大学 大澤武司研究室（西日本部会代表）

メール：osawa[アットマーク]kumagaku.ac.jp *送信の際[アットマーク]を半角記号へ変換してください

ファックス：096-363-1290（大学代表）*大澤研究室宛てと明記ください

なお、研究会ならびに懇親会につきましては、当日のご参加も大歓迎です。

日時：2015 年 6 月 20 日（土） 午後 1 時 開会

場所：福岡大学 七隈キャンパス 文系センター棟 15 階 第 6 会議室

アクセス <http://www.fukuoka-u.ac.jp/help/map/>

13：00～ 開会式

13：10～ 第 1 報告「中国の農村金融改革における MF の役割」

劉 鵬 会員（福岡大学大学院）

13：50～ 第 2 報告「内モンゴル牧畜地域における政策と牧畜戦略—四子王旗の事例より」

尾崎 孝宏 会員（鹿児島大学）

14：30～ 第 3 報告「中国からみた日中韓 FTA の意義と交渉」

下野 寿子 会員（北九州市立大学）

*第 1～第 3 報告司会：大澤 武司 会員（熊本学園大学）

15：10～ 休憩

15：30～ 第 4 報告「霊与肉」（1980）から「牧馬人」（1982）へ—その改編について」

松岡 純子 会員（長崎県立大学）

16：10～ 第 5 報告「馮至の詩「緑衣人」をめぐって（仮）」

岩佐 昌暉 会員（九州大学名誉教授）

*第 4～第 5 報告司会：新谷 秀明 会員（西南学院大学）

16：50～ 総会

17：30～ 懇親会（会費は一般 3000 円、院生 2000 円を予定しております）

*問い合わせ先 西日本部会代表 大澤 武司（osawa[アットマーク]kumagaku.ac.jp）

*送信の際[アットマーク]を半角記号へ変換してください

■日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

日本大学生物資源科学部国際地域研究所『野生生物の利用管理—フードシステム・エコツー

リズム・エコビレッジの観点から一』2015.1

小池求『20世紀初頭の清朝とドイツ—多元的国際環境下の双方向性—』勁草書房、2015.1

土屋貴裕『現代中国の軍事制度—国防費・軍事費をめぐる党・政・軍関係—』勁草書房、2015.1

丸川知雄・梶谷懐『超大国・中国のゆくえ 4—経済大国化の軋みとインパクト—』東京大学出版会、2015.2

青山瑠妙・天児慧『超大国・中国のゆくえ 2—外交と国際秩序—』東京大学出版会、2015.4

川田進『東チベットの宗教空間』北海道大学出版会、2015.2

知足章宏『中国環境汚染の政治経済学』昭和堂、2015.5

劉文兵『日本電影在中国』中国電影出版社、2015.2

류원빙『중국 영화의 열광적 황금기—어느 영화 소년의 80년대 중국영화 회고론』

(산지니, 2015.1) [劉文兵『中国映画の熱狂的黃金期—ある映画少年の80年代中国映画回顧論』(ソウル: Sanzini Book, 2015.1)]

=====

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22

大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局

TEL:03-5307-1175

FAX:03-5307-1196

genchu@univcoop.or.jp 郵便振替:東京 00190-6-155984

広報委員長:王雪萍(東洋大学)

ニューズレター編集:菅原慶乃(関西大学)

日本現代中国学会HP:<http://www.genchugakkai.com>

=====